



誹諧新式目

75
1445

正 礼
七
二

5
1445



利
144

萬葉集



道馬

凡例



一書トク知に詠語の四字を以てその世小
なりしに終り玉著和字彙等の
端小見初ニ詠か音ハイカニニとヲ
あり了角此童蒙ら不兌の字ヲカ
とわく和ノ人篇と用ひ其名小智カ
の又多クハゆへ先師真酒立圃乃ん
とらゝる理分の後記ニ記し世道中
秘沢歌行乃ん後記ニ記し世道中
小志乃ん後記ニ記し世道中

一句と来の用拾并ぬ義古義の悦いふ今莫得
の口受と申中をもけたり乃好士知るに有
るに茶板をせりるものえん事かひいお
粗とすしおらるといふもわたりて
値に此の一家の秘文と傳へて後學
乃龜鑑とん

一曰季子の初も世田の四月より十二月まで
二千八百十ヶ条とて補ふは傳和の
熟字乃季子に用ふる名ものたけい又百
二ヶ条とて入合しこ子二百十二ヶ条と

なり初文季の初に初んる毎へて
ある地の初書に考へるの下に和語の流転
と加ふるもの有は二ヶ条とて入合しこ子
一世におやも切字とよふしとて
季子の初もせいに並べて假令乃進考
れしとて愚拙の初に先起をゆき句と求
磨ふのさみく字と孫んは當時の意地
時候乃進進季子の初とゆるにありて
何小書てり愛むや思ふなり先大ふを
さし今此例小儼くはる切字とて

をいふからん事なれば句と起し句と好
一切字と定むべきの御意なり
一切字の体を知るは字の中義を知る
にけあり哉と有りふべきをいふに
字乃の句とてよくよやと人あり又一向に
切字の句とて初つる年と起るにあり
先哲の授受とあるにあり初めとあり
切字と起るは字と起るにあり切字と
今按に換字とて大慨と示し或も哉也
かり等の切字とせけめお乃下知のあり

其の先軍乃句と被釋しと秘愛切字又十
八字 同二十三文字 句作の書寫ふよりつふ
種紙紙愛の句と十一ヶ条非人非状非
意非述懐非不非格不不非非山非非山非非
を意通の部立の家格乃表表紙小紙
書紙の字今け書被例よ志ふべきと
除く但ふ句とて是非ありはよせり
書われとて又述懐と懐回と表傷やと書
をいふ(とて)二つふらうといふよと

二子七百一貫いろはの初まきうひくむね七
 一初んの意をいひくむね七
 一つくろふに丁敷と記し早口の月影の
 下を考合く来ぬ影乃くむねに思ひ
 かこくむねん

誹諧新式目

誹諧之連歌を書る

誹ハ敷尾切音斐なり誹諧乃誹なり譏ふり又
 俳ハ歩皆切音牌く誼ハ俳優ハ雜戯之也い
 て俳ハ歩多りなりを訓と史誹諧の二字を
 史記名滑稽に準くくその趣奔右利はあふ
 其の言諧乃く火とともふりひなれくや
 清輔の真名抄も書きまゝ誹諧乃字ハ
 さこやく誹諧とあも別誹諧とらふ

字義

談笑乃二字其^{カヨ}ふ^{カヨ}なる^{カヨ}理ありけり物^{モノ}といひ
これ^{コト}詠^{ナラフ}の字と書^ヒけり言^{コト}非^{ナラフ}の字と書^ヒけり
度^{タビ}も非^{ナラフ}の字と書^ヒけり言^{コト}非^{ナラフ}の字と書^ヒけり
説^セり詠^{ナラフ}の字と書^ヒけり言^{コト}非^{ナラフ}の字と書^ヒけり
あ^アの^ノ口^クは^ハ物^{モノ}なりと書^ヒけり詠^{ナラフ}の字と書^ヒけり
なり^{ナリ}紀^キ氏^シも古^コ今^{イマ}集^シふ書^キも古^コ今^{イマ}集^シふ書^キも
い^イの^ノ抄^{セウ}物^{モノ}と書^ヒけり詠^{ナラフ}の字と書^ヒけり
ク^ク工^{コウ}キ^キヤ^ヤウ^ウの^ノ字^ジと書^ヒけり詠^{ナラフ}の字と書^ヒけり
い^イの^ノ字^ジと書^ヒけり詠^{ナラフ}の字と書^ヒけり
物^{モノ}久^ク惠^ヱ切^{セツ}計^{ケイ}を^ヲい^ハす^ルに^ハ角^{カク}も^モ付^ツけ^ルと^スべ^シ

つと^ツと^トの^ノ字^ジと書^ヒけり詠^{ナラフ}の字と書^ヒけり
なり^{ナリ}今^{イマ}詠^{ナラフ}の字と書^ヒけり詠^{ナラフ}の字と書^ヒけり
こ^コの^ノ字^ジと書^ヒけり詠^{ナラフ}の字と書^ヒけり
比^ヒの^ノ字^ジと書^ヒけり詠^{ナラフ}の字と書^ヒけり
点^{テン}と^トの^ノ字^ジと書^ヒけり詠^{ナラフ}の字と書^ヒけり
字^ジの^ノ字^ジと書^ヒけり詠^{ナラフ}の字と書^ヒけり
同^{ドウ}合^{カウ}の^ノ字^ジと書^ヒけり詠^{ナラフ}の字と書^ヒけり

く早とわニヤウく及くニヤウとたものイハチにせイハチ
日月の流ツキケツえりリウ橋ハシの表ウラはフミキ怪ワカ詠リ乃コありコとコなる
と述ツとコいハとハとハ裏ウラのハ世ヨをシめルとハなるコとハ
りハのハにハ合カなりハ古コ人ジをシ制セしハるコ不フ測ソクありコりハ
先マ哲テ字ジとハ用ヨウするコのハおハるコとハいハあハてハもハよくハくハ改カ味ミ
とハいハこハりハなりハしハ

歌カハハ柯カやハらハとハ枝エありハりハ又マ哥カのハ字ジとハ用ヨウするコのハおハるコとハいハあハてハもハよくハくハ改カ味ミ
永エイ言ゴン从ジュウ二ニ可カ長チヤウ引イン其キ声シヤウ以イ誦ソク之ジ也ヤとハ説セツ文ブン小コ歌カハハ詠エイ也ヤ長チヤウ引イン
其キ声シヤウ以イ詠エイ之ジ也ヤとハ説セツ文ブン小コ歌カハハ詠エイ也ヤ長チヤウ引イン
とハいハこハりハなりハしハ

るハ一ハ條テウ規キのハ亦マデにハあハるコとハ右ウヘ今イマ乃ナラバ其キのハおハるコとハいハあハてハもハよくハくハ改カ味ミ
に書ニきキとハいハこハりハなりハしハ

句クとハ求モトふハ乃ナラバ用ヨウ給キヤウ

かハくハとハ句クとハ設セツ家のカ用ヨウ給キヤウのハおハるコとハいハあハてハもハよくハくハ改カ味ミ
たハちハふハ不フ夜ヤくハ尸シのハおハるコとハいハあハてハもハよくハくハ改カ味ミ
結ケツへハとハいハこハりハなりハしハ

二

福やせ返る言よとの只ゆく果しくやしく漢は
 也がしふひしこを辨揚よ是は信也又同人の此人
 也信する一府と信よみる人教の中よてふとんやせお
 知のうおく或いさしめいおを見んといんゆもや合えん
 の中よあもたをそ一たそのさうし毎交に制一の
 ちる層よ子北をめらひいさうし對面し又んも志う
 する人よやそあかりふ是非を教しうてあは
 ち優あしひいさうしとまはるんそ何の増能乃人れあ
 やまりふいぬてくれし又さあひのさし能うなるふ
 少い執筆のよと教を付んさあぬさあひを筆

ちのあやましくぬし又官内れれと好むありうてたをこ
 のむ人ありしつとを是やし何と非とせんや合えち
 にまする信もやうに辨揚も強にまうのて定うた
 成へし大系院一系親を入本たしりてあをうしとあふ
 信くし書んて筆と信しとやれ書しとさそも
 よしうももまにむを人一切うてあはてはてつよ
 くかんとして筆と紙おつうめめめめめめめめめめめ
 くの編籍あしとさうは強くいんし次あひのさしとあ
 道邪見といやう人とを減よこの四綱法たふさし
 たりやおけつたさう一書この懸綿やうしとあしと

あふらふく人死いともくしに赤人めとやその 猿丸

いづく歌くくハ墨きよらにうきまき 西天

是と篇序歌曲流の八美とらあ一字ナくに行て

るのびコトハリもすくおひ志ふしキ寂蓮法師乃シ

おも是と用ひしもかまをねれ家キくにうりく太

乃五美えうりり作りぬれ法師を序體キヨ腴偏ヨロ

流せとしハるのほけ右傳ホあるひ

惜流曲證題

あふらふく人死いともくしに赤人めとやその

秋の夜を月

惜流支歌體

あふらふく人死いともくしに赤人めとやその

せとのしあひさしあひさし

惜序歌曲體

あふらふく人死いともくしに赤人めとやその

あふらふく人死いともくしに赤人めとやその

序歌支曲體

あふらふく人死いともくしに赤人めとやその

あふらふく人死いともくしに赤人めとやその

あふらふく人死いともくしに赤人めとやその

さうららるる本のまゝに月ハまじくく

まじりにまじぬ音とありて

此亦にいらしむはくまると大なる時く家くして

少つづのうらりちかやまし右の内商流くむひや

月系とくくハ篇序曲流を長せたりかういれ

乃新とくくくふいめくも流ま皮肉骨の二新より

八義とくくくハ十新三新を志なく乃階級

めくも人の愛る長ぬ矢とくくく接とくく授け

ゆへとくくくや又五義のくくハ伽欠羅婆阿の

入つに通ハ神仏の内秘とめくくくハハ商承乃迷

とくも破ハ上未菩提の周縁中をを流の程ありとや

ハ瓜家然ハ冠頭詞眼心乃ありあり口結

六義詳論

六義とハ凡ハ賦とくくくハ比とくくくハ真とくくく

将とくくくハ頌とくくくハ長頌とくくくハ口結とくくく

ハ歌とめくくハ物とくくくハ傳とくくくハ結とくくく

ていふ比ハ心とくくくハ言とくくくハ教とくくくハ考とくくく

真ハその瓜とくくくハそれとくくくハて歌の心とめくくく

是凡比真とくくくハこれに似くくのいさか乃遠りく又賦ハ

そのとくくくハくめくくハく特とくくくハくもめくく

たつたふらふら〜んをら〜ぬるあが

とらふらふら〜ん終書とあつはら〜のふら〜んといふ

はら〜ぬるあが〜ん

山の系タイや〜んあがの浪ウミ 季吟

穀カラとあ〜んあがの震シズメとあがの穀レモ 鷺水

比ヒ八雲ヤクモ抄セウあ〜んはら〜ぬるあが〜ん

あ〜ん定家テイカとあ〜んあが〜ん

あ〜ん清輔キヨフクの云クモ正義セイギあ〜ん見ミ今イマ之ノ失シラ不フ敢カン行コウ言ゴン取ク

比類ヒライ以ヒ言ゴン之ノ今イマ終シマ比ヒはら〜ぬるあが〜ん

そのふら〜んこのゆ〜ん比ヒとあ〜んあが〜ん

との右ミダリ今イマ乃ナラ中ナカ書カキに比ヒそのゆ〜んあが〜ん

世俗セソクにあらとあ〜んあが〜ん

あ〜んあが〜んあが〜んあが〜んあが〜ん

後ゴ派ハわ〜んあが〜んあが〜んあが〜ん

とあ〜んあが〜んあが〜んあが〜ん

あ〜んあが〜んあが〜んあが〜ん

あ〜んあが〜んあが〜んあが〜ん

あ〜んあが〜んあが〜んあが〜ん

ふまの糸の杖尾 案乃こころんが 貞徳
とこかへく多きうあいの内付介 孝吟
帯本やサシくしの杖の色 鷺水

こまらふやのこころんが

雅 ヤクモミセリ 八雲の抄ふいしく 雅いそことおふといり古今

これらりのれそのかりうしてれと云く定家このい

雅 カ 雅いそふりど少もかこころんが

一始より終まくりいれを雅よ二つあり一ふい言雅

二よ意雅し言雅とい細いあうりくわいあうり

かりうひくを雅いんいあうりくわいあうり

ちく細ふとくく 鏡いもく 流定ちりてぬうも

よんかへくわんいあうり

春ふあをりよんかりよみうり 雅の

やういもくいもくけいあうり

あういんいあうりくわいあうり 鏡い

きり別とわうりあうりやう字と終せんらん

字いもくいあうりははらん叶るあうり之流捕

のいもく毛詩小云言天下之事形四方之風謂

之雅雅正也政有小大故有小雅有大雅焉今案

小雅いもくいあうりははらん物いもくいあうり

神乃ちまこととや代々の家橘

とらふを引くまこととや代々の家橘

法師乃ち教をまこととや代々の家橘

表のむれんまこととや代々の家橘

信ありは是を花橘とまこととや代々の家橘

冥加あはれを宿よめとや代々の家橘

右の説と引くまこととや代々の家橘

あつてはまこととや代々の家橘

やいそえまこととや代々の家橘

一字に終つてはまこととや代々の家橘

まこととや

四季詞

正月

あつてはまこととや代々の家橘

あつてはまこととや代々の家橘

あつてはまこととや代々の家橘

あつてはまこととや代々の家橘

あつてはまこととや代々の家橘

總書 一三 毘沙門 九月廿五日 上元 九月廿五日 粥乃 九月廿五日 粥乃 九月廿五日

花灯夕 十五日 粥乃 九月廿五日 粥乃 九月廿五日

豆粥 九月廿五日 粥乃 九月廿五日 粥乃 九月廿五日

豆粥 九月廿五日 粥乃 九月廿五日 粥乃 九月廿五日

豆粥 九月廿五日 粥乃 九月廿五日 粥乃 九月廿五日

豆粥 九月廿五日 粥乃 九月廿五日 粥乃 九月廿五日

豆粥 九月廿五日 粥乃 九月廿五日 粥乃 九月廿五日

豆粥 九月廿五日 粥乃 九月廿五日 粥乃 九月廿五日

豆粥 九月廿五日 粥乃 九月廿五日 粥乃 九月廿五日

豆粥 九月廿五日 粥乃 九月廿五日 粥乃 九月廿五日

糰餅と藪 日誌と天宮やまをいふと厚くは東の俗にのいふ

糰餅と藪 日誌と天宮やまをいふと厚くは東の俗にのいふ

糰餅と藪 日誌と天宮やまをいふと厚くは東の俗にのいふ

糰餅と藪 日誌と天宮やまをいふと厚くは東の俗にのいふ

糰餅と藪 日誌と天宮やまをいふと厚くは東の俗にのいふ

糰餅と藪 日誌と天宮やまをいふと厚くは東の俗にのいふ

糰餅と藪 日誌と天宮やまをいふと厚くは東の俗にのいふ

糰餅と藪 日誌と天宮やまをいふと厚くは東の俗にのいふ

糰餅と藪 日誌と天宮やまをいふと厚くは東の俗にのいふ

糰餅と藪 日誌と天宮やまをいふと厚くは東の俗にのいふ

糰餅と藪 日誌と天宮やまをいふと厚くは東の俗にのいふ

糰餅と藪 日誌と天宮やまをいふと厚くは東の俗にのいふ

糰餅と藪 日誌と天宮やまをいふと厚くは東の俗にのいふ

糰餅と藪 日誌と天宮やまをいふと厚くは東の俗にのいふ

和景 韶景 春ノ景ナリ 出所同上 良時 芳時 春ノ時ナリ 出所同上 淑節

麗景 四機活法ニ人静尤知一長 春光 活法ニ世界分爲サ化良 春ノ景ナリト有 華節 良節 芳節 嘉節 共ニ春ノ節也 類各纂要

淑氣 在審言カ詩ニ一催黃鳥暗光轉頰綠 春ノ景ナリト有 同ノ名ニ月ノ類 青帝 楚辭ニ青

新ナリト有 共ニ春ヲ云 月正 百紫千紅照眼 同ノ名ニ月ノ類 青帝 楚辭ニ青

條凡登歳謂之春時 青月皇 同上活法ニ一 東君 唐子西カ詩

蒼君天 春ノ天ナリ 勾芒 春ノ神ナリ 大皞 漢書ニ出タリ 青陽

武帝纂 陽和 自居易カ詩ニ先遣 花蓋 夏侯湛賦ニ春可 樂号綴雜也

要ニ出タリ 少陽 前律曆志ニ出タリ其詞ニ一者東方 迎陽 立春ヲ

土牛 同上車坡カ詩ニ土牛明 絲燕 歲時記ニ立春ノ日悉ク絲ヲ 日莫 韓春トツケリ

生来 奇人月令ニ九ツ立春ノ日令生 解凍 礼記月 灰揚景記ニ立春ノ日直陽金門山ノ竹ヲ取テ管トメ

瑄通 續漢書ニ出 新陽 詩學大成 微和 淵明カ詩ニ出 木德 隨ノ青帝歌ニ震宮初動 華胎 礼樂志ニ出 春生 律曆

谷已千年曾見 庭梅 庭ニアル花 溪梅 溪ニアル花 紅梅 梅ノ名ノウツクシク

蟠梅 活法ノ詩ニ屈榦蟠株倚石根 月明花 苔梅 苔ノ莖タレ 飛

梅 雪ノ中ノ月梅 月夜ニ見ル 風梅 凡ニチル 烟梅 露ヲ覆ノ内ニアリ

嶺梅 同ク嶺ニアル花ト云活法ニ天賦出資異衆芳 官梅 官人ノ内

杜少陵カ詩ニ東閣官梅動詩興 野梅 野ニアル花 古梅 活法ノ古梅ノ

還如柯遜在楊柳ナト、賦ニタリ 野梅 野ニアル花 古梅 活法ノ古梅ノ

義皇未畫前 庭梅 庭ニアル花 溪梅 溪ニアル花 紅梅 梅ノ名ノウツクシク

蟠梅 活法ノ詩ニ屈榦蟠株倚石根 月明花 苔梅 苔ノ莖タレ 飛

梅 雪ノ中ノ月梅 月夜ニ見ル 風梅 凡ニチル 烟梅 露ヲ覆ノ内ニアリ

孤梅一木アル 踏梅空カシユ花ノソク 早梅早ハ柳子學 红梅カ詩ニ出ハヤキ

清香幽香ヨリ 清香イツモ活法ノ梅ノ所ニアルナリ 新香トコト 暗香モナク

浮香幽香ヨリ 浮香イツモ活法ノ梅ノ所ニアルナリ 浮香トコト 暗香モナク

同梅ノ天名雪魂 冰魂惠理カ詩 疎影林和靖カ 花魁古

五出活法ニ壽陽公 冰姿日 雪骨東坡カ句ニ羅浮山下梅花 瓊

次學士高啓 綴珠活法ニ 真珠村至雪爲骨氷爲魂ナリ 水晶實香 素羅コ

皆活寒 英柳子厚 南枝東坡カ 水肌康溪詩話 伯

夷拾林集 鶯黃鸝 說文黃鳥 詩經黃鸝 出詩經 曉鶯法

新鶯李太白カ 流鶯王恭カ 橋鳥 倉庚楚雀 皆詩經法

同之ののち名鶴鶴 黃粟留 倉庚楚雀 皆詩經法

金衣公子開元遺 歌舌梅聖俞 歌童韓愈カ

二月の詞ひり月 少さ 初年二月との日の月後中此

江別江別 妙寺妙 泉列水洞寺の初年

釋奠二月上丁日先哲孔子老子釈日と林南中乃

春二月 春二月 春二月

二月二月 二月二月 二月二月

二月二月 二月二月 二月二月

二月二月 二月二月 二月二月

二月二月 二月二月 二月二月

二月二月 二月二月 二月二月

若神文のつとふ七百二十二の徳と多あり
年号と形しるすも天長天皇五年二月に始
見上月を弁りし外紀史ややとのく
見冠上花と形しるすも天長天皇五年二月に始
一月比らばの八つあり
新れ能 二月堂のおこたひ
吉野の餅くらり

遺書及経 九月より十九日と申す
佛乃別 二月のこたひ
新れ能 二月堂のおこたひ
吉野の餅くらり

貞福寺の夢楽々 積塔 十六日先考天皇の皇子を奉れり
春の月 二月の月 二月の月 二月の月
春の月 二月の月 二月の月 二月の月

日 社月 二月の月 二月の月 二月の月 二月の月
春の月 二月の月 二月の月 二月の月

後万系 天長天皇五年二月に始
道明寺系 二月の月 二月の月 二月の月 二月の月
二月の月 二月の月 二月の月 二月の月

春の鷹 二月の月 二月の月 二月の月 二月の月
二月の月 二月の月 二月の月 二月の月

二月の月 二月の月 二月の月 二月の月
二月の月 二月の月 二月の月 二月の月

二月の月 二月の月 二月の月 二月の月
二月の月 二月の月 二月の月 二月の月

二月の月 二月の月 二月の月 二月の月
二月の月 二月の月 二月の月 二月の月

二月の月 二月の月 二月の月 二月の月
二月の月 二月の月 二月の月 二月の月

地りしる 柳楊あふと出さ 子
 万をのた いちゆめいふ 梅の葉 秘のつまひ
 をれさる 和袖 ふかきん ちり 秘 奇居虫
 をはこ 飯指 根 お志人のとれ 田あし 和衣
 ひしゆのつまり 和のさむら 八重の楊 ころりち 秘中楊
 花と待 ちのた ちんさく 彼居楊
 佳本 苗代菜菓 焼形 ちんさく 相焚
 屋守好の落 ちんさく 秋の女けり
 畑の 田ととく 田と ちんさく ちんさく

とい田のあふふ 柳あふふ 柳あふふ 柳あふふ
 葱つむ ちんさく ちんさく ちんさく
 さわつ ちんさく ちんさく ちんさく
 かつ ちんさく ちんさく ちんさく
 蕨 ちんさく ちんさく ちんさく
 菜の花 ちんさく ちんさく ちんさく
 湯 ちんさく ちんさく ちんさく
 仲春 類聚 繁節 同云二月 繁節
 華景 同二月 芳草 武帝 纂要 芳塵 活法
 華景 同二月 芳草 武帝 纂要 芳塵 活法

星鳥 尚書二日中星鳥以 四陽 仲陽同上 拾翠 類書箕小

花之時 殷仲春 踏青 類書箕茶要二月 民俗 推芳酒出郊 旌賞 スルヲ

芳 朱文公カ 料峭 武帝纂要 春 入氣と 温 和春

萌動 春分木ノ萌 和暖 ハルノ自ノアタ 舒遲 ハルノ日

冲融 ハルノ長閑 湯漾 春ノ光ノ大 鮮明 春色ノマ 嫩绿 春色

微暖 早春ノタニ 淡晴 天気ハレ

三月の節

己の月

乃の扱 足ふらん 曲水の宴 三日の節

桃花の節 三月の節

柳の節

柳の節 三月の節

小社 三月の節

薬師寺 三月の節

寒 三月の節

春 三月の節

春 三月の節

春 三月の節

春 三月の節

春 三月の節

春 三月の節

春 三月の節

春 三月の節

福細

さくらさくらひ

和布

柳葉菜

お雑煮

こあら

煮子

新葉摘

母子草

桃

ひら

ひらひら

山梅

花さくら

おのうと

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

梨乃花

山吹の花

朝のつゆ

海棠

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

おいら

三夏以上元帝纂孟夏禮記初夏活法復夏活法

魏夏活法長日唐ノ玄宗ノ詩人皆苦炎維夏畏日傳

炎帝魏相傳赤帝淮南子祝融禮記月令

長羸朱明元帝纂要光明赤帝淮南子祝融禮記月令

假宣前律曆灰台楚詞星火書經趙盾左傳正陽西京雜

大火繁欽賦氣陽管子黃雀周處風土記姚黃西京雜

牡丹北化花名錢思公常曰姚黃西京雜

天香李詩蘭麝白居易臧休元

玉東坡玉香馬詩國香田器仙衣活法回星

錦苞楊妃西子鴨綠貴品玉膚

紅衣金縷五佩風葩露蕊絳羅

雪花紅衣金縷五佩風葩露蕊絳羅

鶴周怨鳥謝豹思飯樂蜀魄杜首

杜宇濮陽傳黑羽蔡宗竟蜀魄

不知歸北范文正不知歸去格物論

五月名詞五月五月五月五月五月

五月名詞五月五月五月五月五月

五月名詞五月五月五月五月五月

五月名詞五月五月五月五月五月

五月名詞五月五月五月五月五月

五月名詞五月五月五月五月五月

五月名詞五月五月五月五月五月

五月名詞五月五月五月五月五月

五月名詞五月五月五月五月五月

五月名詞五月五月五月五月五月

五月名詞五月五月五月五月五月

五月名詞五月五月五月五月五月

苦短 謝灵運 流金 蜀後主 詩ニ出

重牛 活法ノ詩 詩ニ出

佳節 王大傳詩 端五 歲時記 午節 蒲節 艾節

類書纂 重五 令節 佳辰 活法 天中 提要録 蘭

湯大載 懸艾 尺牘 雙魚

要ニ出

六月の詠

これ月

極暑の月なればこゝろの暑もつとれ

なほともひりあまをよとせと累しき風まら月

月 忍月乃心

飯と代と 一日の月 一書 酒

六月 月 月 月

七月 八月 九月 十月 十一月 十二月

社(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神)

神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神)

神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神)

神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神)

神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神)

神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神)

神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神)

神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神)

神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神)

神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神)

神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神)

神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神)

神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神) 神(神)

仲夏 夏ノ
藍州 藍州ノ
楮 楮ノ
秋乃 秋ノ
挂香 挂香ノ
仔吉 仔吉ノ

季夏 六月ヲ云フ也
長風 凡土記
酷暑 杜子美カ
逐凉 逐凉ノ

南風 孔子家語
三伏 三伏ノ
三庚 三庚ノ
火龍 火龍ノ
火旗 火旗ノ

濕暑 月全
長夏 杜子美カ
火 薛道衡詩
波沸 僧密カ
蓮 蓮ノ

納涼 夏ノ
長夏 六月ヲ云フ也
火 火ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

火 薛道衡詩
波沸 僧密カ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ
蓮 蓮ノ

七月

詩 雲錦 丘瓊山カ
出 雲錦 詩 出
回青 曹修古カ
函首 介雅ニ出

秋のころ 秋ノ
初涼 初涼ノ
鏡果 鏡果ノ
楸 楸ノ

乃の 乃ノ
桐 桐ノ
楸 楸ノ
楸 楸ノ

楸 楸ノ
楸 楸ノ
楸 楸ノ
楸 楸ノ

楸 楸ノ
楸 楸ノ
楸 楸ノ
楸 楸ノ

楸 楸ノ
楸 楸ノ
楸 楸ノ
楸 楸ノ

楸 楸ノ
楸 楸ノ
楸 楸ノ
楸 楸ノ

垣^{カキ}茅^{クサ}久^ク天^{テン}瓜^カ蕃^{バン}椒^{カウシ} 菟^ウ麻^マ子^シ 蓬^{ホウ}之^ノ实^シと

とらひく^ク秋^{アキ}ん^ン 木^キ瓜^カの^ノ実^シ 槐^{ケイ}乃^ノ花^ハ 常^{ジョウ}山^{サン}の^ノ花^ハ

早^{ソウ}稻^{ダウ} 心^{シン}法^{ホウ}かん^{カン}ん^ン如^ニと^ト 秋^{アキ}の^ノ夜^ヤ 日^{ニチ}く^クト

秋^{アキ}の^ノ烟^{エン}録^{ロク} 秋^{アキ}乃^ノほ^ホく^クる^ル 秋^{アキ}は^ハひ^ヒひ^ヒ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

えん^{エン}ま^マく^クの^ノあ^アん^ンを^ヲ 秋^{アキ}乃^ノほ^ホく^クる^ル 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

ひ^ヒま^マい^イひ^ヒこ^コこ^コい^イう^ウう^ウう^ウ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

ひ^ヒあ^アま^マを^ヲい^イひ^ヒこ^コこ^コい^イう^ウう^ウ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ 秋^{アキ}乃^ノ花^ハ

立秋

礼記月令三其日立秋

九秋素秋 元帝纂要 秋陽 孟子秋陽 金神

類書纂要 秋容 淡平空トアリ 爽気 廬秋

高秋 杜子美カ詩ニ高秋收畫 秋月 詩經 落日

白目 活法 小昊 月令ニ出タリ 秋ヲ主ル神也 廿辱

秋 文ニ金神 按節 炎氣 除トアリ 秋ヲ司ル神ナリ

秋 文選ニ用秋 擘涼 廬秋 爽気 宋美

秋 文選ニ用秋 擘涼 廬秋 爽気 宋美

秋 文選ニ用秋 擘涼 廬秋 爽気 宋美

秋ノ神 白藏 尔雅 穽 斂 律歷志 流火 毛詩ニ

葉落 淮南子 露降 月令 烹葵 詩經 短景 岳

賦ニ出 高應 潘安仁カ 立政 管子 水落 魏文帝燕歌

梧報 程明道ノ詩 七夕 牽牛 織女 集林大斗 二星

崔氏西民月令ニ出 牛夕 杜甫カ 巧夕 類書纂 銀河

明河 絳河 アノカ也 雙星 星河 活法ニ出 六牛 廿

鵲橋 淮南子並ニ風 河漢 文選 本 露 瑞應圖 膏露 藝

志ニ出 朝露 史記 七夕 乞巧 荆楚歲時記 大孫

史記天官 知牛 駢女 盧全カ 水精 物理論ニ出 地紀

唐天文 金梭 秘周剛話 志ニ出

八月

八月 八朔乃旬 一曰 たのむを 後 圓の面ハいぬ 田を

たのむを 後 圓の面ハいぬ 田を 八月 八朔乃旬 一曰 たのむを 後

たのむを 後 圓の面ハいぬ 田を 八月 八朔乃旬 一曰 たのむを 後

たのむを 後 圓の面ハいぬ 田を 八月 八朔乃旬 一曰 たのむを 後

たのむを 後 圓の面ハいぬ 田を 八月 八朔乃旬 一曰 たのむを 後

たのむを 後 圓の面ハいぬ 田を 八月 八朔乃旬 一曰 たのむを 後

たのむを 後 圓の面ハいぬ 田を 八月 八朔乃旬 一曰 たのむを 後

たのむを 後 圓の面ハいぬ 田を 八月 八朔乃旬 一曰 たのむを 後

たのむを 後 圓の面ハいぬ 田を 八月 八朔乃旬 一曰 たのむを 後

たのむを 後 圓の面ハいぬ 田を 八月 八朔乃旬 一曰 たのむを 後

たのむを 後 圓の面ハいぬ 田を 八月 八朔乃旬 一曰 たのむを 後

律ハ八懐 志加ハ八人 素日 志加ハ八人 素日

天中ノ節 八月 八月 八月 八月 八月 八月 八月 八月

北野 素 白盤 用 教 賀 素 十月

司 北野 素 白盤 用 教 賀 素 十月

律ハ八懐 志加ハ八人 素日 志加ハ八人 素日

片月 古人ノ詩ニ多用來ル
四月 出所ヲ記スニ不及
海月 活法ニ海月當四夜
看雲起暮愁トアリ

好月 同詩ニ從來好月多雲妬何
淡月 陳去非カ
野月 黃

城カ 山月 除四冥カ
秋月 謝明カ
皓月 李太白カ
月乃天

冰輪 東坡カ
冰鏡 謝莊カ
金波 前漢志ノ詩
水

精淮南子 金精 河圖帝覽
玉盤 李太白カ
銀盤 盧

詩ニ出 金丸 蘇子由カ
金環 樂天カ
蟾兔 九經通義ニ

合璧 漢書 玄兔 李周翰
蟾 李周翰カ
蟾兔 九經通義ニ

白シ是故ニ秦城トモスト 皓魄 李朴カ
明蟾 陳藏一カ
田蟾

碧岩 鴻鴈 詩經疏ニ大曰鴻小曰雁
來雁 禮記月令
雲雁 范彦龍
一雁 杜詩
宿雁 日
落雁 日
沙雁 杜

雁字 山谷カ
雁乃若也 倉鳴 廣雅
雁行 禮記ニ出タリ
雁 雁 雁 雁

接武 羊祐賦
來賓 月令
雁賓 杜詩
雁奴 王介甫カ

雁塞 梁列記
回雁 郡國志
鴻毛 漢王褒頌
野性 去知寒暑
天倫 活法ニ天倫不笑
陳后 班超 同上

九月九日 御覽
九月九日 御覽

石塘田の愛 七月五日田の後
御覽

桐栢 八月 泉涌寺舍利堂 八日
重陽宴 九月九日

のまんを好むんけ手陽と九、陽教のう
八月九日九かれらと名付をう

八月九日九かれらと名付をう

三十日 九月

九月の節

季秋 月令 菊秋 暮秋 晚秋 深

秋末 抄秋 以上類書纂要 商風 金風 素風

高風 涼風 悲風 以上元帝纂要 出 白雲 漢武帝秋

起兮白雲 琪樹 許渾詩 紅樹 日 無射 月令 出 夕

潭清 烟凝 滕王閣 序 出 樹落 荷衰 講 懃 力 筑 寺

場 詩 經 宜 節 東坡書 嘉 節 韓退之 詩 出 德 輿 力

泛 菊 風 五 記 桑 落 杜 詩 龍 沙 千 騎 權 德 輿 力

紫 菊 艾 菊 小 雅 黃 華 月 令 雜 菊 陶 淵 明 力

野 菊 以上 事 文 類 殘 菊 王 荊 公 力 日 精 本 草 綱 目 菊

治 曆 介 雅 黃 金 杜 詩 周 盈 本 草 金 錢 玉 錢

源 隱 方 黃 白 菊 月 采 陸 龜 蒙 力 詩 出 落 英 楚 詞 出 夕

十月 長 神 月 許 冊 子 菊 月 令 出 夕

神 是 一 日 夜 神 必 也 燧 精 一 日 南 楚 之 人 燭 之 燄 也

更 衣 衣 之 衣 務 也 孟 冬 句 一 日

神 是 一 日 夜 神 必 也 燧 精 一 日 南 楚 之 人 燭 之 燄 也

神 是 一 日 夜 神 必 也 燧 精 一 日 南 楚 之 人 燭 之 燄 也

神 是 一 日 夜 神 必 也 燧 精 一 日 南 楚 之 人 燭 之 燄 也

神 是 一 日 夜 神 必 也 燧 精 一 日 南 楚 之 人 燭 之 燄 也

神 是 一 日 夜 神 必 也 燧 精 一 日 南 楚 之 人 燭 之 燄 也

少田 冬 冬 冬

村場始

五日 十日 十五日 廿日 廿五日 三十日

くたいたんをそとせし他のよちをひきと家々の口はせんとあはしむ

遠摩忌 廿日 十夜念仏 廿四より 貞福寺は花を

六日 雑摩舎 十日 金毘羅系 十日 新清 十三日 下えの

かりされんみまいりうとらあなきと座の弘は出師とて田新修

同 十日 兵官解厄 東福寺 寅のふ 寅のふ 寅のふ

十日 大社神 十日 神集 十日 神のふ 十日 神のふ

小雪の節 十日 法徳寺 大系と云

からり 炊火 出あけ 茶かん白切 初志られ

のふれ 川 音の無 志られ 初志られ

月の霜 落葉 木の葉のふ 木の葉のふ

お葉らぬ 柳 冬年の橋

つと一野乃 落葉 柳 冬年の橋

菊枯も 葛くろく 枇杷の花 菜の花

山々余花 昂花 冬牡丹 八乃乃花

冬草 石草 荳蔻 荳蔻

大根ひく 蕎麥刈 納豆汁

...

女あらしの風はこと秋の老戸とわらふもいふふ比ししく一ちつ八月

かろくとせりし秋より乃武とせりあはるくとく

唐の暮 一日 朝旦冬を 十月之朝不 芝居新足

一陽の志 秋の暮 後世といひり 宮様とせりあはる

きくくまうり 襪とてそまの 地はそむの目毎ふり又

相掌の糸 上卯日 ちねの若方神足

宗像糸 上卯 山科糸 上巳 平野

春日糸 日 當摩糸 翠川糸

尚宗糸 日 中山糸 日 杉尾糸 日

周辨糸 中世 若田糸 中申 日在糸

五音 長久保糸 五音の糸 五音の糸

帳其の試 出雲の試 辰との試

待の役 始末とて百もんとて使のまをいふと

法魂八糸 中卯日 糸 中卯日 糸

中卯日 糸 中卯日 糸 中卯日 糸

月在 糸 中申 糸 下卯 糸

東二糸 乃 糸 糸 糸

神糸 糸 糸 糸 糸

神糸 糸 糸 糸 糸

神糸 糸 糸 糸 糸

神糸 糸 糸 糸 糸

神糸 糸 糸 糸 糸

神糸 糸 糸 糸 糸

神糸 糸 糸 糸 糸

川より起るの情より句中に字をとりてあらはるる
 たり見字と發音とを以て示すものなり
 則ち系と情とを以て示すものなり
 人よりと私収より字眼より一字より
 二三字のめいこを切字といふ割なり
 とも師古といふ如く切物苟取整致不顧
 短綴横たや書かんまにまゝに切るものゆへ
 又七又の内いつくもあはれ切字といふもの入つて
 一と句と別動とて整齊をとり他の句とあ
 りてひるより古魯と字と造るなり

長短屈曲かん杖とつゞく井翰の層樓とあ
 終極端捕乃る瓜瓜のらるる加くと切字の
 徳とらるる十六摩多乃る悉曇系といひ諸字大
 莊嚴の功と換へ十二点畫の楷書に母とる
 切字といひ誦讀といひ句莊嚴の切
 あり又後続の終小宋佛世之詩以爲樂歎所
 通情の内切やめると元といふ小授やとせ
 さへといふ切と去声やめるといふ切と又
 ち終るたおや元とらるる此人乃詩と道ふ句中
 字の法あり支る助語を式あるも兩字相應

字と一字とく句

あちいおし 及び乃もせん花ひる

一句あし

中くは思ひこころは月の香

あま句ふハ神祇 あまはあらしと神といひ地とありと祇といふ神あり

唯一宗係十八かと神祇の思成神祇の終る 神のまに付くといひあるとあつて神祇といふ

法皇の御つすまらしくわれとえまふる天のまゐるまをいふと

あまのまといふ 戀わち連歌といふいふとあまのまといふとあまのまといふと

述懐 世の中のつひらさといふことこのまゝしんをまゝあつてあまのまといふと

あまのまといふ あまのまといふとあまのまといふとあまのまといふと

あまのまといふ あまのまといふとあまのまといふとあまのまといふと

あまのまといふ あまのまといふとあまのまといふとあまのまといふと

あまのまといふ あまのまといふとあまのまといふとあまのまといふと

あまのまといふ あまのまといふとあまのまといふとあまのまといふと

神祇考

天志 天志といふとあまのまといふとあまのまといふと

拍子 拍子といふとあまのまといふとあまのまといふと

湯立 湯立といふとあまのまといふとあまのまといふと

板枕 板枕といふとあまのまといふとあまのまといふと

忌竹 忌竹といふとあまのまといふとあまのまといふと

火焼屋 火焼屋といふとあまのまといふとあまのまといふと

後水 後水といふとあまのまといふとあまのまといふと

神楽 神楽といふとあまのまといふとあまのまといふと

脈のあり

脈一五川乃新

脈一五川乃習あり一六と相對二六云折添之有

いづく遠付四六云こつ法付五六云はとまり之宮帳

法付の三脈いられ折や一ちあゆめんくういづこ

いつまもくも能くさ句も有く一變句のこもり

月やんめいさ月まに付るこらうくういづこ

句まもりさし歌もさ過物く一しん名もさるかと

い子ゆやまをえ又ふ句やまの末ハ山歌をさるも言

しういれ一三志ふあまと誹諧小あつていざりし

こひしう一七紹巴法眼のいづこ變句ふうい

くうのく一八藤さいやふ小實のありあひをへし句

くも長きく何あくも文字わくも一しん名もさるかと

あまやとあくもさるもあつて人さるもさるも

や後乃歌とくれとくへくや

お原 ウチス 名やうく山もやるあひくアハ ユラハ 宗祇

対付 ソイツケ 清水をさく梅あやふ ウツ こそ ユラハ 月拍

名う声うやう ユラハ といやうさ

卯の死や垣垣や卯の死 ユラハ 宗祇

身 ミ やことし ユラハ ねとらそ ユラハ の花を ユラハ 宗祇

遠付 チカヒツク 身 ミ ねとら ユラハ 山 ユラハ の死 ユラハ 乃 ユラハ あり ユラハ 宗祇

一くもつたやゆき雪の夜やうそ 銀色法眼入大周秀
 多ふふまうういやうもほりまれつて
 若ふはの春やうれいにもふかこのころあ句一のあふ
 きまらるるかた一旬のうらまひさくかやうい
 めもいさういし才三の大眼てとまりあくとちうの
 七字あてふははれいをもあしゆか
 あはれいこのやうあくういふもふ平句や
 ものよしういし
 梅雪のうまよとやせれ白う群
 庭しうあふ乃ちかむん
 雪のう声の外はあふ陰えく
 宗紙紙師

誹諧

蝶やちうとくいとまぬ花をふけ 音節
 いふ新いん 葉終欵冬
 花ものとき 雪のまもあし
 へん字
 やうあふめあぬ月の長用こ 玄哉
 あく新うく 幾好入別うん 昌叱
 んいさうい
 せり毛ちういし 海生海月 湖岳
 雪ふるうあはれあつたあ入あは 法眼宗紙

中はうきつゝ

あてははとらふけり

毛流くかん終るれ乃夕う終

うれとく神の流れ目おさひ

是ああく廻とけくけくも目おさひくもく

あり終と交く人年あり

ありく家のあふ乃目おさひくを流く流るう洞

うきとくいあくPさ

あぬ史婦の中乃くれ

いあその終あかけく流の声

是まきく終あふあけ終るのあまけくあぬれ

のあまのあまけくあまけく交り

あまのあまけく

うきいあああああ

うれく終のと終るあひとら

これあまのあまけくあまけくあまけくあまけく

らくあまのあまけくあまけくあまけくあまけく

あまけくとあまけく

あまけくあまけくあまけくあまけく

あまけくあまけくあまけくあまけく

〇

おしつるをさとぬくけり

歌乃こほとそ歌

借月まうにま 山乃り

遊法やせにうら 家屋を

見いあとう川うらにをぬくえもせにうらぬ

そのふをぬりうるとらうほをせ

歌の詞とやま

さむやとた 友の心おをこ

いまをぬく 陰子うらみ

これかなふはよさうやこのをふぬくうらみ

るをいさやこのをぬくうらみ

後乃のうらとを

惣歌とをぬくけり

君ふぬく 山より志うけり

この道のうらぬ威夫人とてうあひのぬり呂太后の

後に一乃ち子ありされをぬくと捨く二のち子

小波作のちぬり有うの張良を右とんとぬ

せしそまうり高山といふふ川にまうり居くをぬ

此君せともぬらう 東園云 夏屋云 角屋云

生孫雲 雲子なうらぬ人の笑人と君く一のち子

後

此字に平のりよりいへり
 中はあおれつちの初とある
 少く純しくわきまの
 括弧をもちも耳なれども
 一ひひもくあやむや
 秘あるまあも二句二句
 づらふまうらるるや
 ひもひもくもあやむや
 やのみええく
 月夜
 佛

此のりよりいへり
 中はあおれつちの初とある
 少く純しくわきまの
 括弧をもちも耳なれども
 一ひひもくあやむや
 秘あるまあも二句二句
 づらふまうらるるや
 ひもひもくもあやむや
 やのみええく
 月夜
 佛

色

此のりよりいへり
 中はあおれつちの初とある
 少く純しくわきまの
 括弧をもちも耳なれども
 一ひひもくあやむや
 秘あるまあも二句二句
 づらふまうらるるや
 ひもひもくもあやむや
 やのみええく
 月夜
 佛

子なる、
七のまゝ 眠 七のまゝ 人の夜 七のまゝ 孫の 七のまゝ 孫の

しつゝ孫の 孫の 孫の 孫の 孫の 孫の 孫の 孫の 孫の 孫の

ぬふ 子目 孫の 孫の 孫の 孫の 孫の 孫の 孫の 孫の 孫の 孫の

根 根 根 根 根 根 根 根 根 根

念 念 念 念 念 念 念 念 念 念

孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫

念 念 念 念 念 念 念 念 念 念

孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫

念 念 念 念 念 念 念 念 念 念

孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫 孫

鳴子

鳴子 鳴子 鳴子 鳴子 鳴子 鳴子 鳴子 鳴子 鳴子 鳴子

こ 用とちあると生れ 二のちあり 鳴子 鳴子 鳴子 鳴子 鳴子 鳴子

く二 かる 神 子なるといふ かく 人のかくに唱 かるに

り 三つ担ありにあり 詠 三つ担にありとあるは三つ かるに

月 月 月 月 月 月 月 月 月 月

苗 苗 苗 苗 苗 苗 苗 苗 苗 苗

南 南 南 南 南 南 南 南 南 南

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

右非如遊母年自年須礼極遊布布也
ゆりたつ 二
ゆりたつ 二
ゆりたつ 二
ゆりたつ 二
ゆりたつ 二
ゆりたつ 二
ゆりたつ 二
ゆりたつ 二
ゆりたつ 二
ゆりたつ 二

ゆ

名神

善日の神位吉の神位智の神位也の神位の名も
名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神

名

名神

名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神

名

名神

名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神

名

名神

名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神

名

名神

名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神

名

名神

名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神

み

名神

名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神

名

名神

名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神

名

名神

名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神

名

名神

名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神

名

名神

名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神 名神

五

五 修 子 書 抄 本

そのうちよりよき花あつたおまかせ
らに修子ありくくくそのふたつにとまむ

修 子 尉

おまかせのうらむしとむ

あひと

神祇あれども雨
八分の雨あつておまかせ

の 本

おまかせのうらむしとむ

あひと

人偏に
あつた

つ 老

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

つ 士 の つ 火

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

つ 詠

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

つ 潘 厨 の 身

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

ら ぬ に

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

い

い 米 室

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

い 氷 の 換 法

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

い 日 々 日

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

い ひ じ

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

い ひ や り

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

い ひ や り

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

い ひ や り

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

い ひ や り

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

い ひ や り

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

い ひ や り

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

い ひ や り

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

い ひ や り

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

い ひ や り

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

い ひ や り

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

い ひ や り

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた

い ひ や り

おまかせのうらむしとむ

あひと

あつた



おと

西とくくまー

も

中か二むと下た

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

おと

三つ柄の内か二つを乃おま二つと一えと二つ

ぬ何いそれ其とあしめんそは小部言とく
 入へてこそ小部言とあしめんそは小部言とく
 秋少陵別子あやの河よりとあしめんそは小部言とく
 のいありしと韓愈心則退孟東野あやにあり
 てうれさ人なりくるふやとてうれさ人なりくるふやとて
 言の格あり京祐年中に種子あやのそとく累つて思
 駕凡鞭霆以脱とく六之の格あり東坡子他ホ
 凡鱗とく六之の格あり松偃蓋如轉其雨淅涼似秋七言五
 有客高吟擁鼻無人共喫饅頭とく感集ホの格あり
 言平五字共ニ平仄五字共ニ仄感集ホの格あり
 くわりといの九物中又とてつとく正格あり

是に及格とく常に慶慶とく
 と連誦小おのて一たつて和詩人才子也
 凡強といとみあはれはひり安陪乃仲凡の
 遣厚使しとあしめんそは小部言とく
 日本是卿辭帝都征帆一片遠蓬
 壺明月不還沉碧海白雲秋色滿
 蒼梧
 仲凡とれと慶とく

仲凡とれと慶とく

